

TPC マーケティングリサーチ株式会社

医薬品原薬・中間体市場について調査結果を発表

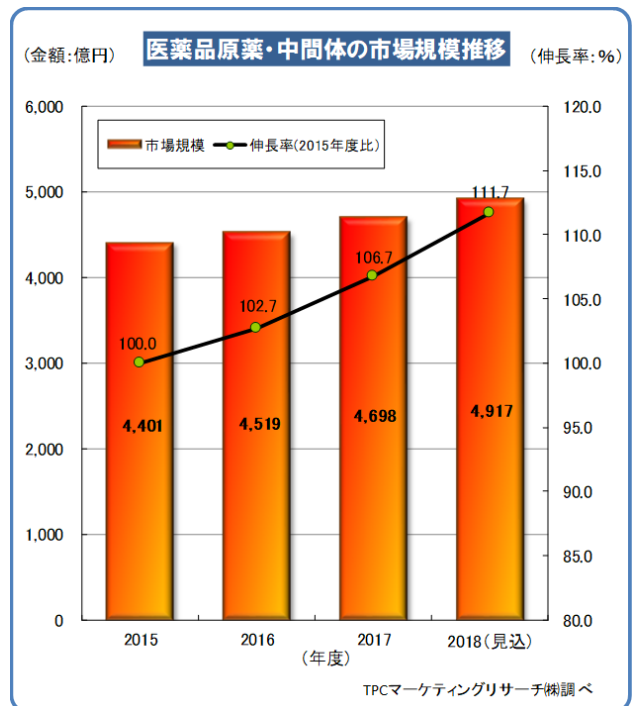
この程、TPC マーケティングリサーチ株式会社（本社＝大阪市西区、代表取締役社長＝川原喜治）は、医薬品原薬・中間体市場について調査を実施、その結果を発表した。

【調査結果】

2017 年度の医薬品原薬・中間体市場は、前年比 4.0%増の約 4,698 億円となった。

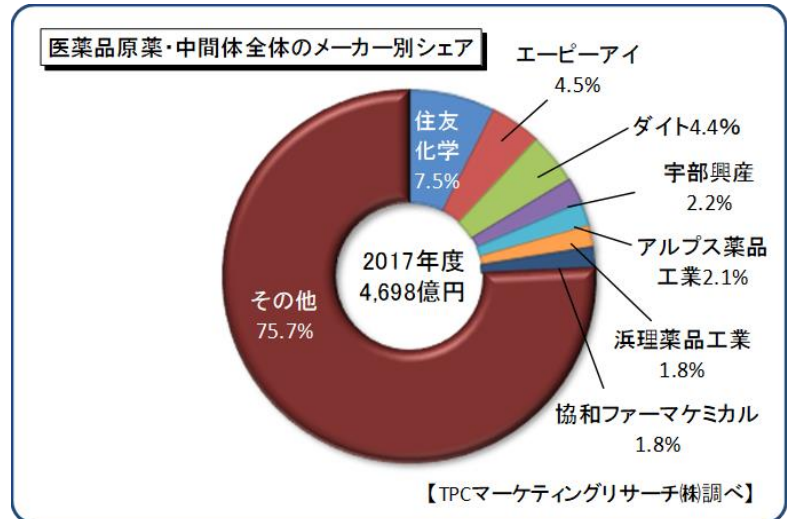
ジェネリック医薬品原薬及び高薬理活性原薬の需要増により、市場が拡大した。

- 2017 年度の医薬品原薬・中間体市場は、前年比 4.0%増の約 4,698 億円となった。国内には外資も含め、約 300 社のサプライヤーが存在し、市場は活性化している。
- 分野別では、原薬が構成比 65.1%の約 3,059 億円、中間体が同 34.9%の約 1,639 億円となった。
- 市場が拡大した要因としては、ジェネリック医薬品原薬の普及・拡大や、高薬理活性原薬の需要拡大、さらには受託サービスのニーズが高まっていることが挙げられる。
- このうち、ジェネリック医薬品市場では、今後も参入メーカーの増加が見込まれることから、競争がさらに激化すると予想される。
- 一方、高薬理活性原薬では、高齢化の進行を背景に、抗がん剤向けなどを中心に需要が拡大している。このため、高薬理活性原薬の製造施設を設置する企業や、高薬理活性原薬事業を原薬事業の柱の一つと位置付ける企業が増加しており、今後も需要の拡大が予想される。
- こうした市場背景から、参入各社は海外での生産拠点の確保や、生産設備の増強に力を入れている。
- 2018 年度も、引き続き市場が拡大し、前年度比の 4.7%増の約 4,917 億円となる見通し。



メーカー別では、住友化学がシェア 7.5%の 350 億円でトップ。
ジェネリック原薬の受託製造や医薬品中間体の販売が好調となり、
前年比 16.7%増と 2 桁伸長を達成した。

- 対象 23 社をメーカー別にみると、住友化学がシェア 7.5%の 350 億円でトップとなった。次いで、エーピーアイ コーポレーションが同 4.5%の 210 億円、ダイトが同 4.4%の 208 億円、宇部興産が同 2.2%の 104 億円、アルプス薬品工業が同 2.1%の 100 億円などで続いている。

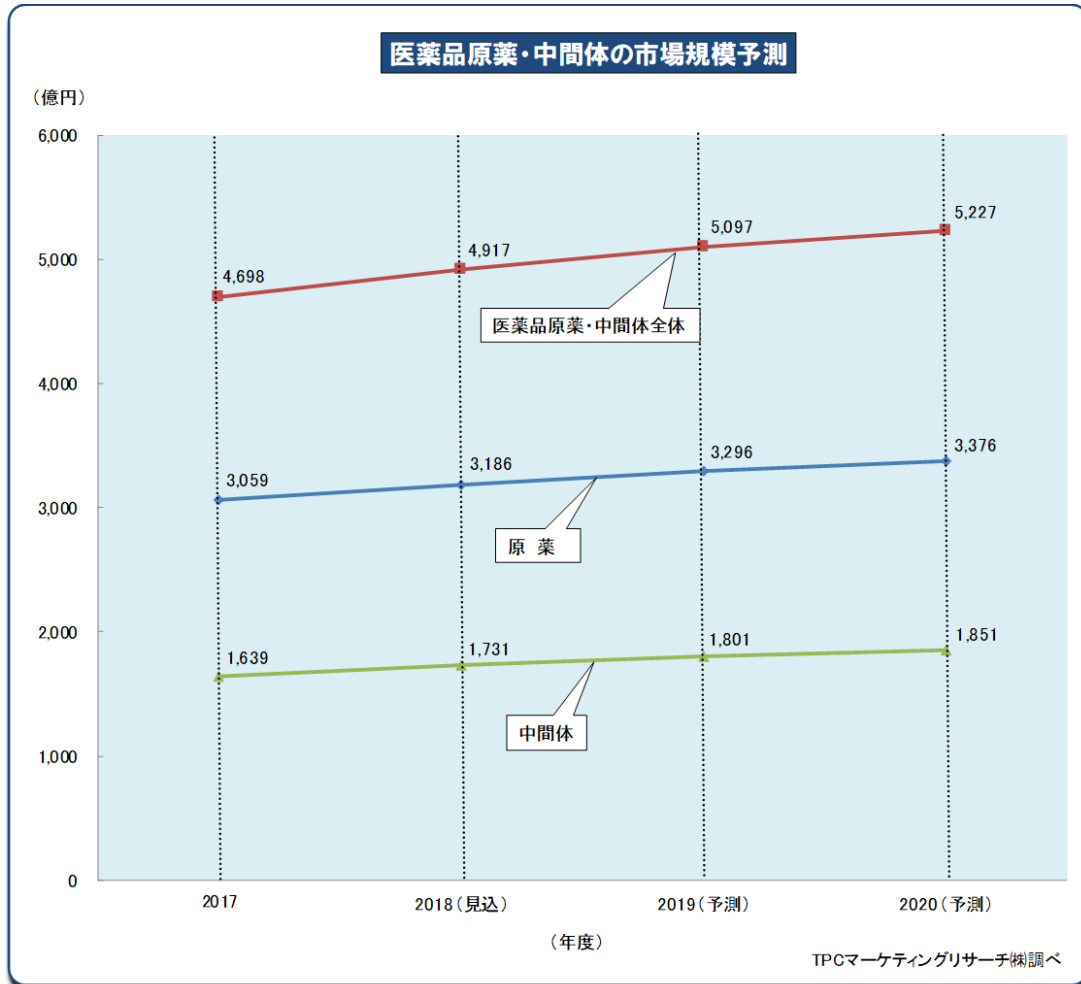


- 住友化学は、前年比 16.7%増となった。要因としては、既存事業であるジェネリック原薬の受託製造が好調だったことや、連結子会社である広栄化学工業の欧州向け医薬品中間体の販売が伸長したことが挙げられる。
- エーピーアイ コーポレーションは、同 2.9%増となった。同社は、欧州を生産拠点とした MAPIC Europe によるジェネリック原薬や海外大手製薬企業向けの中間体が拡販し、増収に寄与した。
- ダイトは、同 6.3%減となった。伸び率は減少したものの、同社では国内ジェネリック医薬品市場の拡大に伴い、ジェネリック医薬品向け原薬の売上が伸びている。
- 上位メーカーは、今後もジェネリック医薬品向け原薬の販売や海外展開などで売上を伸ばす見込みである。中でも、浜理薬品工業は、ペプチド医薬事業や低分子医薬品事業のさらなる拡大により、今後も増加する見込み。
- このほか、今回個別企業編で取り上げていないメーカーの中では、AGC、石原産業、昭和電工、積水メディカル、東洋紡なども売上規模が大きい。

医薬品原薬・中間体市場は、

2020年には2017年度比11.3%増の約5,227億円に拡大する見通し。

引き続き、ジェネリック医薬品市場や高薬理活性医薬品市場の拡大が見込まれる。



- ・ 2019年の医薬品原薬・中間体市場は5,000億円以上に達し、2020年には約5,227億円に拡大することが予想される。これを2017年度比の伸び率で見ると、2019年度が8.5%増、2020年度で11.3%増となる。年度平均では、約3.8%ずつ拡大すると予想される。
- ・ 要因としては、ジェネリック医薬品市場や高薬理活性医薬品市場の拡大が挙げられる。特に、ジェネリック医薬品市場においては、「2020年末までに数量シェアを80%以上にする」という政府目標が掲げられていることが大きな要因となっている。また、原薬企業の不採算製品でのアウトソーシングニーズについても、さらに強まってくると見られる。
- ・ 同時に、価格競争や市場競争が激化することが予想される。実際に、海外に自社工場を立ち上げ、簡単な中間体の合成などは海外に委託し、比較的難易度の高い原薬などを国内で製造する企業も増加している。今後、市場環境の変化に柔軟に対応できるサプライチェーン戦略と、それを支えるサプライヤーの役割がますます重要になってくると見られる。

【調査要覧】

＜調査対象＞

医薬品原薬（API）[アセトアミノフェン（解熱消炎鎮痛剤）、テガフル（抗悪性腫瘍剤）、アゼルニジピン（血管拡張剤）]

医薬品中間体[4-アミノ-5-クロロ-2-エトキシ安息香酸、L-アラニル-L-プロリン、Na-ベンジロキシカルボニル-L-リジン、他]

＜調査対象企業＞

大阪ソーダ、ダイト、白鳥製薬、天野エンザイム、スガイ化学工業、住友化学、アルプス薬品工業、浜理薬品工業、東レ・ファインケミカル、エーピーアイ コーポレーション、岩城製薬、協和ファーマケミカル、富士化学工業、宇部興産、トクヤマ、有機合成薬品工業、金剛化学、堺化学工業、室町ケミカル、富士フィルムホールディングス、日本粉末薬品、阪本薬品工業、福寿製薬、その他参入企業

＜調査期間＞

2018年6月～9月

＜資料名＞

「2018年 医薬品原薬・中間体の市場分析調査」

—「ジェネリック」「高薬理活性」「海外展開」が市場成長の鍵—

<http://www.tpc-osaka.com/fs/bibliotheque/mr410180435>

発刊日：2018年9月25日 頒価：97,000円（税抜）

【会社概要】

会社名：TPC マーケティングリサーチ株式会社

所在地：大阪府大阪市西区新町 2-4-2 なにわ筋 SIA ビル

事業内容：マーケティングリサーチおよび調査レポートの出版

コーポレートサイト：<http://www.tpc-cop.co.jp/>

オンラインショップ「TPC ビブリオテック」：<http://www.tpc-osaka.com/>

ISO27001 認証書番号：IS598110

【本件に関するお問い合わせ】

フリーダイヤル：0120-30-6531